

ねっとわーく

市町村のページ〔シリーズ：公民館と子どもたち〕

- ・公民館と子どもたち ……福岡市西花畑公民館
- ・公民館と子どもたち ……中間市
- ・公民館と子どもたち ……大刀洗町中央公民館
- ・公民館まつり in 子どもフェスタ ……みやこ町中央公民館
こちら県公連
- ・平成20年度福岡県公民館大会の報告
- ・平成20年度福岡県公民館実践交流会の案内

平成20年11月 公民館情報通巻112号

発行 福岡県公民館連合会

〒812-8575 福岡市博多区東公園7-7
福岡県教育庁教育企画部社会教育課内
TEL 092-643-3887 FAX 092-643-3889

シリーズ：公民館と子どもたち



「サッカーロボット作り教室」— 苅田工業高校の生徒達と — (みやこ町中央公民館)

公民館と子どもたち

福岡市西花畑公民館

『 明るい笑顔がいっぱいの、子どもたちの元気な声はじけちる、人と人が出会う街 』
中学生が描く「西花畑」の未来像である。以来この校区の町づくりは「子どもたちが輝くこと」。
その目標にむかって、従来から取り組んできた事業をさらに発展、充実させることにしました。

1 にこにこ赤ちゃん教室（子育て支援）

H.18 年度より、新米お母さんの育児不安を和らげ、楽しく子育て、さらに子育て仲間との学び合いをねらいとして開催。

ヤングママ育児セミナー（家庭教育支援）

H.3 年度より 5 年間開催。H.5 年に育児サークル【ゆうゆう



ゆうゆうくらぶと高齢者の交流

先輩ママがアドバイス
くらぶ】の誕生。学びあう仲間と共に、世代交代を繰り返しながら、多彩な自主活動を繰り広げてきた。ところが、15 年続いたゆうゆうくらぶが 18 年度末、3 組まで減少。育児サークル存続が危機に。育ちあう仲間づくりを目的にヤングママ育児セミナーを復活。セミナー終了生が加わり、23 組まで輪が広がった。

さくらっ子ひろば（子育てサロン）

月 2 回公民館を開放。自由に過ごせる場を提供。地域のボランティアさんが支えている。

2 わくわく体験広場（学校週五日制事業）

H.9 年度から取り組む。開設当初より『子どもたちによる子どもたちのための広場』がテーマ。子どもたちが企画し主体的に、結果よりもその過程を大切にすることを心がける。異年齢で班をつくり 1 年を通じて活動する。高学年は低学年の面倒を、低学年は自分も高学年になれば……という思いが育つ。班長のなり手に事欠かない。キャンプや交流も取り入れ、多くの人たちとふれあう機会をつくる。地域のボランティアに支えられていることを常に伝え、いずれ大人になった時、地域の子どもたちを支えて欲しいと願っている。



運動会 うまか棒くい競走

3 国際交流

H.15 年度より、西花畑小学校とニュージーランドの子どもたちとの国際交流が始まる。互いの国を訪問し文化交流やホームステイを通じ、21 世紀に夢や希望を抱きながら、豊かな心とたくましく生きる力を育むことをねらいとしている。



西花畑音頭を体験

地域活動の入り口は公民館

赤ちゃんのときから公民館を利用。大人になっても公民館を身近に感じ、さまざまところで、いつでも気軽に公民館を利用し、力を蓄え活かしてくれるのではないかと思う。その親も子育てを通じ仲間と育ち合い、近い将来地域の財産となる人たちである。そんな親の後姿を見て育つ子どもたち……頼もしい限りである。

公民館と子どもたち

中間市

中間市の子ども会活動は、戦後すぐにソフトボール大会や野外活動(キャンプ)を中心に、青少年健全育成として開始されました。中間市子ども会育成連絡協議会が発足したのは昭和52年で、昭和56年から主催事業として開催している遠賀川親子たこあげ大会は今や地域の祭りとして定着しています。また、平成19年度に子ども役員会が復活し、現在、子ども自らの自立・共生・連帯を合言葉にジュニアリーダーの養成を進めています。

1 活動内容

【子どもまつり】

今年で、30回目を迎え、中間市中央公民館にて福岡県子どものつどいも同時に開催しました。この活動は、中間市内の子どもたちが一同に集まり、遊びやバザー・紙芝居等をとおして育成者と子ども達とのコミュニケーションを深めることで子どもたちの健全育成推進を図っています。

【子ども役員会】

毎月1回20名が中央公民館に集まり活動をし、1年間の活動をとおしてインリーダーからジュニアリーダー、今年、シニアリーダーも育っています。今後は三世代交流の活動を考えていきたいと思えます。

【親子たこづくり教室とふるさと遠賀川親子凧あげ大会】

毎年12月に「日本凧の会」の指導による親子で凧作りに挑戦し、翌年1月に遠賀川親子凧あげ大会「凧あげコンテスト」を行い、市内市外、年齢を問わず、その腕を競っています。

【新年対抗かるた大会】

日本の伝統遊びの一つである犬棒かるた取りをとおして、中間市だけでなく直方市の子も達との交流の場として位置づけて開催しています。

【アンビシャス広場】

中間南校区アンビシャス広場委員会では、平成15年から週4回星ヶ丘公民館にて読み聞かせ・畑づくり・絵日記等地域のボランティアの人達と一緒に広場作りをしています。

2 公民館とのかかわり

中間市子ども会育成連絡協議会の事務局は中間市中央公民館内にあり、毎月行われる理事会・役員会・指導者研修会等を中央公民館と連携して活動を推進しています。



子どもまつり



親子たこづくり

問い合わせ先：中間市中央公民館（担当 冷牟田）

TEL 093-246-2321 FAX 093-246-0277

公民館と子どもたち

大刀洗町中央公民館

地域と子どもたちが一体となり、子どもたちが自ら考え主体的に判断し、行動できる力を身につけるようにするとともに、社会体験、自然体験、生活体験などを通して、多くの人との交流や仲間づくりを目的として、子ども料理教室（全学年）、チャレンジ教室（全学年・高学年）の2教室での中央公民館子どもチャレンジ教室を開催しています。

子ども料理教室では、なるべく家庭にある食材を使い異年齢交流の中、それぞれの役割分担を決め協力しながら調理します。指導者は手を出すことなく一連の作業過程を見守り、高学年の子どもが「これはこうしたら」、「そういうときにはこうした方が」等などとリーダーシップをとり、子どもたちなりに自分の思い、考えでメニューが出来上がっていきます。

特に、魚の三枚おろし、手開きは地域の方々に指導協力を願い最初のうちは、危なっかしい手つきであったのが参加の年数を重ねる毎に大人顔負けの包丁さばきを見せるようになり、年1回はホテルでいつもと違った緊張感の中でテーブルマナーの勉強会も行っています。

そして、3月の最後の教室では、年間通じて学んだメニューの数々でお世話になった方々や、保護者等を囲んでのお別れ食事会を開催し、一年間の成果を披露しています。

また、チャレンジ教室では、スポーツ（グラウンドゴルフ・ゲートボール等）にチャレンジ、アウトドア（登山・キャンプ等）にチャレンジ、食づくり（味噌づくり・パンづくり）にチャレンジ等など様々なことにチャレンジしています。

中でも、海と山とのチャレンジキャンプを、1年毎に開催し、自然体験、生活体験等の共同生活を通じ異年齢との交流の大切さを学ばせています。

こうした2つのチャレンジ教室を通して、現実的なことをしっかりと体験させ、それを土台に様々なことにチャレンジする精神を育成していくことが必要ではないでしょうか。



問い合わせ先：大刀洗町教育委員会 生涯学習課
電話 0942-77-2670

公民館まつり in 子どもフェスタ

みやこ町中央公民館

1、日常の活動について

子どもの成長期に体験する機会を与えることは将来生きる力として蓄積されます。社会環境の変化に伴い子ども達が地域社会や自然にふれあう機会が閉ざされつつある現在において、公民館を拠点として心豊かな子どもの育成を目的として、地域住民と公民館が一体となり年間をどうして魅力ある教室を開催しております。

地域住民方々の指導による教室	公民館の指導員による教室
※ 少年少女合唱団 週 1 回実施	※ ペットボトルロケット大会
※ 生花教室 月 2 回実施	※ アウトドア体験教室
※ 民謡教室 月 2 回実施	※ 親子料理教室
※ 親子陶芸教室 年 4 回実施 (通年で開催)	※ サッカーロボット作り教室 (年 4 回実施 年度ごとに内容は異なる)



少年少女合唱団



サッカーロボット作り教室
苅田工業高校の生徒達と



アウトドア体験教

2、公民館まつり in 子どもフェスタについて

日々活動している団体や育成会、アンビシャス広場など仲間のつどいの場として平成 15 年に「公民館まつり in 子どもフェスタ」を立ち上げました。この行事は地域住民の講師による体験教室や日頃経験できない名人芸などを体験しながら学ぶ内容となっています。これに関係するスタッフは講師を含め 40 名程度、参加児童は保護者を含め 100 名程度になっております。当初はみやこ町犀川地区の児童を対象に取り組んでおりましたが平成 20 年度よりみやこ町(旧犀川、豊津、勝山)の児童を対象に企画しております。

3、これからの活動について

「子どもの声が一番の健康です。子どもは地域の宝」
公民館と地域が連携し、将来にわたり子どもの居場所を確保してゆく事が安全で健康な子どもの育成に繋がることと思っております。

問い合わせ先:みやこ町中央公民館

(みやこ町犀川本庄 641 番地1 Tel.0930-42-1365)



築上町下城井小学校のけん玉名人を招いて



地域住民講師によるお手玉作り

第53回 福岡県公民館大会 —報告—

平成20年8月1日（金）、「水を育み 街を潤す 健康文化都市」朝倉市のサンライズ杷木において、県内各地から関係者約1,000名の参加者を得て、第53回福岡県公民館大会が開催された。

近年、少子・高齢化、都市化、情報化等の経済・社会の変化による地域社会の人間関係の希薄化や市町村合併等による地域社会自体の弱体化等、地域社会の教育力の低下が指摘されている中、学校・家庭・地域の連携協力により、地域の教育力の向上を図り、地域が抱える様々な課題解決のために、身近な学習の場であり、地域づくり・人づくりの拠点である公民館の役割は重要である。



そこで、今回は「学校・家庭・地域の連携を推進する公民館の役割」を大会テーマとし、講演、シンポジウム等を行った。

午前中の大会式典では、長年にわたり公民館活動にご尽力いただき功績があった30名の公民館役職員と3館の優良公民館が表彰された。

記念講演では、滋賀大学生涯学習教育研究センター准教授の神部純一氏から、「社会全体の教育力向上」～学校・家庭・地域の連携協力～と題して、社会全体の教育力向上の必要性を踏まえ、具体的な取組事例を照会しながら、参加者にわかりやすくお話しいただいた。



午後からは、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの馬場祐次朗センター長から、国の施策説明として、「これからの生涯学習・社会教育の在り方」について多くのデータを活用し、公民館の今後の方向性について提言をいただいた。



また、シンポジウムでは、コーディネーターとして大島まな氏（九州女子短期大学准教授）、シンポジストとして山本直俊氏（春日市教育委員会教育長）、古川昭人氏（立花町中央公民館館長）、坂井恵亮氏（福岡県PTA連合会会長）、神部純一氏（滋賀大学生涯学習教育研究センター准教授）に

登壇いただいた。

<シンポジウムの概略>

（山本氏）

- 今の子どもは、昔の子どもに比べて良くない良くないと言うが、知識力は高いし、音楽力は高い、それに情報化は凄いと思う。ただ、コミュニケーション能力が無いから、人との付き合いが浅い。そうすると人を信用するまでの付き合い方ができない。

これは、子どもが育つ地域基盤にも課題があるのではないか。

- 学校が助けられる連携だけでは、長続きしない。学校、地域がお互いに協力をしなければならぬ。生活習慣をきちんとすることで、学力のアップにつながる。また、家庭でのコミュニケーションへとつながっていく。家庭・学校・地域への仕掛け。
- 過去に、「社会総がかりで子どもを育てよう」と言うのはない。これからは、学校だけではダメである。市民・住民の方の当事者意識がポイントになってくる。その中で、「子どもの安心・安全」「障害をもっている子ども」「子どもの体力・学力は大丈夫か」など、子どもを気にかける発言が多い。その反面、学校へのクレームが少なくなった。これは、地域コミュニティがそれぞれの役割をしっかりとつとめていくことができるかからである。
- 教育委員会事務局と今後どのように活性化していくか。
 - ① 社会教育行政と学校教育行政とが、お互いに協力し、連携していく。その結果、開かれた学校・地域になっていく。
 - ② 社会教育、教育委員会の活性化。今後どのように活性化していくかが、公民館の充実な活動につながるカギとなる。

(坂井氏)

- コミュニケーション不足に、基本的な生活習慣のみだれ。それに加え、集団ルールが守れない。これは、家庭における教育力に問題があり、責任は保護者にある。
- 新家庭教育推進宣言事業。平成17年度より全国に先駆けてスタート。初年度は、12校が参同してスタート。翌年には、県教育委員会の支援を受けて120校へ、その後、211校。今年度は、225校となっている。事業単位は学校で、取り組みは、家庭で行う。何をするかは、親子で決める。そうすることで、まず、親子間でのコミュニケーションを取ることが出来る。
- 子ども・親・先生に対してアンケートを実施。「大変良かった・良かった」と回答した親が80%であった。「変化があったのか」の問いに、半分以上の親が、「変化があった」と回答。先生からは、「親に変化がみられた」の声が上がった。この結果を踏まえて、事務局としては、成果があったとみている。今後の課題としては、実施している家庭は問題ないのだが、実施していない家庭や学校には、どのような形で実施してもらおうのか。また、継続的に実施していかないと成果がでてこない。
- 今後、新家庭教育推進宣言事業が県民運動になり、広がって行って欲しい。この事業は、継続していかないと意味がない。学校・地域・家庭が奏でられるハーモニー（調和・交流）の場。そこが公民館。

(古川氏)

- 公民館活動の中に、子どもを入れて欲しい。子どもの利用は少なく、高齢者の利用は多い。公民館活動の活性化を図るためにも、世代間交流を図る。また、中央公民館が地域へ出ていき、親と子どもたちが活動する事業（継続できる事業）を、地域を活用しながら事業を行う。
- 文科省の推進事業だが、子どもを対象に多くの事業（教室）を開催した。事業内容は、自然体験教室・太鼓教室・昔ばなし教室・親子コーラス教室・元気遊び教室・ダンス教室など。高校生や高齢者が指導にあたった。予想以上に、子どもたちが集まり、教室によっては、成果発表会を行った。
- 教育委員会からの応援が大きかった。また、地域・学校からの応援も助かった。学童保育から帰ってきた子どもたちが、教室で学んだことを親に教える動きが見られた。そのことで、親

子の会話が増えた。教室の指導は、専門の先生から、地域の指導者へと変わった。各世代のいいところが出てきた。教室をとおして、子どもが積極的になったり、高齢者も元気になったりと、その成果がきちんと出た。

- 公民館は、いかず場所。学校・地域・家庭の連携を手助けしてくれるところが、公民館。(神部氏)
- 体験・人間関係が問題。楽しい体験を重視する。現在の体験は楽しい思い出にはなっているが、自分の身には何もなっていない。楽しい体験とは、大切さや充実感が持てて、自分の身に付くもの。自分たちで企画計画をした事業の取り組みは大変良い。親が準備したものは、あまり意味がない。成果をきちんと出せる達成感を味わわせる。自分たちで目的を決めて達成させることが、充実感・達成感へと繋がる。現在の親(家庭)が、子どもに対して行う、4つの過剰

- ①世話のしすぎ ②指示のしすぎ ③与えすぎ ④受容のしすぎ
- この4つの過剰が、子どもをダメにする。

家庭は、子どもの自立の応援をし、自立心を養う場所である

- 公民館への3つのキーワード
 - ①場所づくり(雰囲気のある場所づくり例えば、会議の雰囲気が和気あいあい)。
 - ②人づくり(リーダーづくり)の場所。
 - ③子どもたちの自立を応援する。

<コーディネーターのまとめ>

(大島氏)

子どもたちの自立のために、意義のあるプログラムをいかに作るか。

三者連携して作っていく(体験)。

公民館は、学校と地域のパイプ(コーディネーター役)役である。子どもたちが達成感を感じられるプログラムを作る。

地域のムードメーカー・ディレクターの養成。

子どもにとって第三者(地域)の応援は大切。

公民館は、演出者である。



平成20年度福岡県公民館実践交流会の御案内

1 趣旨

近年、科学技術の進歩や情報化の進展、さらには少子高齢化や都市化の進行など、社会情勢が急激に変化する中、地域社会における公民館の在り方が問われている。

このような中、社会教育推進の中核的施設であり、地域づくりの拠点である公民館の関係者が一堂に会し、日ごろの実践活動の成果について発表し、情報交流を深めることによって、公民館活動の一層の充実・発展に役立てる。

2 主 催

福岡県公民館連合会・福岡県教育委員会

3 期 日

平成21年2月4日（水）

4 会 場

福岡県立社会教育総合センター

糟屋郡篠栗町大字金出3350-2 TEL 092-947-3511

5 対象者

公立公民館職員、自治（町内）公民館関係者、公民館運営審議会等委員
社会教育行政職員、公民館利用者、社会教育実践活動に関心のある者

6 日 程

9:00～	資料展示
9:30～10:00	受付
10:00～10:20	開会行事
10:30～12:15	公民館活動実践発表
12:15～13:30	昼食、情報交換
13:30～15:15	公民館活動実践発表
15:15～	総括・閉会（各分科会会場）

7 実践発表一覧

地 区	分 野	テ ー マ	所 属 ・ 役 職 名 ・ 氏 名
北九州市	環境（教育）	ホテルの住める環境づくり	二島市民センター 館長 河村峰由
	特色ある公民館活動	『西戸畑 地域ふれあい推進事業』～体験・環境・伝承活動を通して～	西戸畑市民センター 館長 松尾 剛

福岡市	家庭教育	いきっ子キッズクラブ活動	老岐公民館 主事 竹中恵子
	特色ある公民館活動	子育てサロンおいもコロコロ	吉塚公民館 主事 山口玲子
福岡地区	団体育成・サークル活動	「郷づくり」に伴う自治公民館活動	福津市・宮司三区公民館 館長 坂根康廣
	特色ある公民館活動	フォーラムイベントによる協働のまちづくりの推進	志摩町社会教育課 主幹 高田直一
北九州地区	地域づくり	「ふれあい交流と地域づくり」	総合政策部男女共同参画推進室 ・中央公民館 直方市中央公民館 係長 上野三鈴
	自治公民館活動	「公民館活動の活性化を目指して」	鞍手町自治公民館連絡協議会 会長 田中達彌
北筑後地区	人権教育	人権のまちづくりについて	久留米市田主丸総合支所 文化スポーツ課 主査 竹上克己
	特色ある公民館活動	地域の課題解決とネットワーク拠点を目指して	小郡市のぞみがおか生楽館 館長 松熊小和子
南筑後地区	国際交流	公民館で育む国際交流～「ハートフルスピーチコンテスト」を通して～	柳川市教育委員会生涯学習課 大和公民館担当係長 荒木和久
	学社連携・融合	「『みなみ子供広場』の取組について」	みやま市・南校区公民館 館長 辺春英雄
筑豊地区	ボランティア活動	糸田町土曜スクール	前糸田町教育委員会 教務課長 村上 清
	青少年教育	平成20年度「よくばれっ！夏休み体験バイキング！たがわトコナツKIDS4」	田川市教育委員会 学習振興・人権教育グループ 地域活動指導員 野見山 真衣 地域活動指導員 箕野 光起
京築地区	高齢者教育	上毛町高齢者大学の取り組みについて	上毛町教育委員会教務課 社会教育係 林 充彦
	男女共同参画	「豊かな生活の場」づくり	築上町中央公民館 館長 井上敬子

○ 発表時間は、1発表25分です。